

秋田県
退職校長会

会報

題字 秋田師山書（秋田市会員）

第 96 号

秋田市手形学園町1-1
秋田大学教育文化学部
同窓会旭水會 内

令和3年3月25日 発行

秋田県退職校長会



「四十年振りの改善に期待」

秋田県退職校長会副会長 須藤 幸 紀

「新型コロナウイルス」の感染拡大に伴う2度目の緊急事態宣言が発令されるなど、先行き不透明感が深刻だ。そんな中、昨年12月17、18日両日のマスコミ報道「35人学級小学全学年で」（読売新聞）は、待ち望んだ内容だった。ただ「本当か」との思いが強かった。加えて文部科学省は、30人学級の実現を模索していたはずなのに「35人」への変更経緯に違和感を持った。

「40人学級」完成後、学級の上限人数の引き下げが期待されたが、小1年の35人学級を除いて今日まで実施されなかった。その間現場の課題に応じて配置する「加配定数」で、児童・生徒の個に応じたきめ細やかな教育の充実を目指した。例として、小1年実施翌年度からは、法改正は無かったが、小2年に35人学級の導入やT・Tなどである。

「本当か」の思いは次の理由による。文部科学省は「児童・生徒をきめ細かく指導するため、教員1人あたりが受け持つ人数を減らす少人数学級化を進めてきた。」全国学力・学習状況調査も、その判断に資するとしていた。財務省は、人数上限の引き下げに向けては、教室の確保や教員の増員などに伴う財政負担が課題となっていた。そして「少人数学級の実現が学力の向上に与える効果は限定的で、財源も示されていない」として、40年もの長い間、複数学年の改革に進展が無かったからだ。

「35人」の違和感については、①OECD調査では、1学級あたりの人数が3番目に多い（33か国中）ことで学習効果にデメリットがある。②教員の勤務時間実態が最も多忙である。③子どもと向き合う時間が増えることで、学習面に加え、いじめや不登校などの指導の面でも、より丁寧な対応ができる。④新型コロナウイルスの感染防止策として子ども同士の距離を取る必要がある。などから、速やかに「35人学級」を実施して検証し、中学校も含めた「30人学級」に結びつきたい意図に、疑問は解消し納得した。

学級の少人数化実現の理由の一つは、14歳未満の児童・生徒数の急激な少子化だ。それに合わせて1学年毎にある程度の年数をかけての改善は、教員配置にかかる財政負担が殆ど無いことである。40年の経過が、頑なな財政課題を解決したことになる。

もう一つは、萩生田文科大臣が、『きめ細かい指導に役立つ』ことに付け加え、先に述べた④の訴えに、菅首相が一定の理解を示したことが、財務省の背中を押したとみられる。禍を福にした例といえる。

これらは新型コロナウイルスに翻弄される中で、一見方向の違う「児童・生徒の安全性」から、個に応じた「きめ細かい指導」が充実する改善である。教えが、学びが、いのある学校の実現には、学校の努力は勿論だが、退職校長会も経験知で支援したいものだ。

去る十二月八日、ゆり支援学校を会場に、中央地区の職業教育フェアが開催され、私は参観の機会を得た。

職業教育フェアは、これまで毎年七月、秋田県障害者技能競技大会（アビリンピックあきた大会）とともに、秋田市にぎわい交流館AUを会場に開催されてきた。今年度は、新型コロナウイルスの影響で、中止。そのため、密を避け、県北、県南、中央の三ブロックで、徹底した感染対策の下、技能競技大会をメインとした開催となったようである。

その技能競技大会とは、実際は七つの競技種目で行われる。しかし、今年度、ゆり支援学校会場では、知的障がいのある生徒を対象とし、「ビルクリーニング」と「喫茶サービス」の二つの競技種目が行われた。各支援学校の選手が、応援の先生や保護者の多数が見守る中、審査員を前に課題に挑む。

ビルクリーニングは、体育館後方に設定されたオフィスに見立てた区画を、一人で制限時間内に手順通りに清掃する。喫茶サービスは、体育館前方に設定された喫茶空間で、二人で四卓のテーブルの来客を接待する。場の張り詰めた雰囲気、重圧と責任感に、選手の緊張はいかばかりか。応援側も息をのむ。



ひつと

「インクルーシブ教育への期待」

秋田県退職校長会
常任理事 安倍 武義

職業教育フェアの開催は、支援学校の職業教育の制度を向上させ、卒業生の雇用を拡大していると聞く。そして、知的障がいや発達障がい、身体障がいの人々に理解を示す企業を増やしていると聞く。障がいのある生徒を社会へ送り出す側の熱意に、頭が下がる。

また、私の地域には、由利本荘地域生活支援センターがあり、グループホーム等ができてきている。支援学校のその努力に応えるべく、地域で生活する、知的等の障がいのある人々を支える仕組みも、整ってきている。

しかし、彼らは地域で生活するには、未だ家族の支えに頼らざるを得ないのが現状である。家族の支えなしに、地域で支えられながらも一人で暮らすには、障がい者の「思い」に応える、地域の理解が必要である。

今、小中学校では、インクルーシブ教育が進められている。この教育を受けた児童生徒が、障がいのある人もない人も互いに認め、互いを必要とする社会の実現に力を発揮してくれることを期待する。延期にはなったが、今年の由利本荘市の成人式に、ゆり支援学校の卒業生も参加の予定であった。障がいのある人の「思い」に応え、障がいのある人となる人との共生社会の実現の、一步としたい。

県事務局だより

事務局長 長 澤 公 生

今年度実施（延期・中止）した事業

4・16 令和元年度監査 協同大町ビル

5・7 県理事会・総会 書面決議

6・3 全連退理事会・総会 中止

7・11 郡市会長・事務局長合同の会

7・31 県会報95号、全連退会報第216号発送

7・31 能代市山本郡退職校長会教育懇談会

10・2 全連退理事会 中止

10・15 第48回東北地区退職校長会協議会（盛岡市）延期

10・22 全連退会報第217号発送

10・24 第42回秋田県秋季研修大会 延期

11・1 あきた教育の日

11・14 秋田市退職校長会教育懇談会 延期

12・14 賀詞を各郡市事務局へ発送

3・25 全連退会報第218号、県会報第96号、全連退年間紀要発送

大曲仙北退職校長会教育懇談会 延期

※他に全連退からの調査報告等を行っている。

郡市だより

Ⅱ鹿角だよりⅡ

今年度のあゆみ

事務局長 吉田 啓一

○第一回理事会開催 令和二年四月八日

・総会の開催について検討する。新型コロナウイルスの感染が拡大傾向にあることから開催は困難と判断、中止することとした。

・会員には、総会中止の通知は四月中に送付し、付議事項の認定については書面での表決を依頼することを決定した。

・年間事業の実施については、感染状況の推移を見ながら検討することにした。

○総会中止の通知発送 令和二年四月十四日

○第二回理事会開催 令和二年六月一日

・書面表決では、七十六名中七十名の方から回答が寄せられ、全員の賛同を得た。

・県退職校長会の文書・総会資料等の報告

○総会成立の通知と会費納付の依頼状発送

令和二年六月四日

○第三回理事会 令和二年八月三日

・今年度の事業についての協議・教育懇談会及び野外研修会の開催中止を決定

・県退職校長会からの情報交換資料の報告

○鹿角退職校長会事業中止の通知発送

令和二年八月六日

○学びの保障推進事業への協力依頼状発送

令和二年九月一日

○第四回理事会 予定 令和三年三月二十五日

Ⅱ大館北秋田だよりⅡ

この一年を振り返って

事務局長 佐藤 久生

○総会（開催予定日 四月二十五日）中止

今年度の総会は、当初、新型コロナウイルスの影響が少ないことから規模を縮小、会員だけの開催とし、案内状発送などの準備を進めてきた。

しかし、感染拡大の影響と、長年、利用してきた会場の休業もあり、急ぎよ役員会で協議し、中止を決定した。会員には、総会中止の連絡と書面による議案の承認をお願いした。

○研修会（開催予定日十一月二十八日）中止

七月の理事会で協議し、中止を決定した。研修会時贈呈の長寿者（傘寿）への祝品は後日、役員が訪問し手交した。

○会報第十五号（発行日 十一月二十日）

総会や研修会の中止により、本会の大きな目的の一つ「会員相互の交流」の機会がなくなった。そこで、年一回発行の会報に多くの会員の声を掲載することで交流を広げようとした。『会員寄稿』の頁を、『会員からの声』短信』の頁とし、全会員に原稿を募集したところ、名誉会員十二名を含め百名の会員から寄稿があり、紙面を大幅に増やして全ての原稿を紹介した。内容は様々で、自由に日ごろの思いや近況を語っていただいた。

会報には、『新入会員の声』、『特色ある学
校経営（現職）』の紹介も取り上げた。

Ⅱ能代市山本郡だよりⅡ

今年度の主な事業を振り返って

事務局長 佐藤 敬顕

今年度は新型コロナウイルスの拡大感染を防止する観点から年度当初に計画した多くの事業を中止せざるを得なく、文書による周知や情報提供が主となった。

①総会（4月18日開催予定↓中止）

事前に行われた理事会での審議をもとに決算・予算案や事業計画案を全会員に書面にて提案したところ、すべての事項で承認となった。新入会員七名に対し歓迎の意を伝えることができず申し訳なく思っている。なお今年度の会員数は12月1日現在で名誉会員十八名を含む百七十九名である。

②教育懇談会（7月31日開催予定↓中止）

現職校長会と共催で3年に2回行っている合同研修会である。今年度は早々に講師依頼を終え準備を進めてきただけに中止は残念でならない。その分来年度、再来年度の開催が楽しみである。

③各種会合・会報等

正副会長・幹事会を2回、会長・幹事会を5回、世話人会、理事会を各1回開催するなどして本会及び県退職校長会の現状把握に努めた。また6月に事務局だよりを、12月に会報第52号を発行し会員相互の近況を報告し合った。

Ⅱ男鹿市だよりⅡ

総会・研修会

事務局長 浅井 繁樹

当初、五月二日に開催を予定していたが、国が新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言を発したので延期することにした。

五月二十五日に宣言が解除されたので、六月十三日に総会・研修会は三密を避ける対策を講じ開催し、懇親会は中止することにした。このため出席者の減少が危惧されたが、例年と変わらぬ来賓三名、会員二十名が出席した。会員の出席率は三十四%であった。

総会後の研修会では、講師に男鹿市菅江真澄研究会事務局長・脇本城跡案内人である泉明氏を迎え、『続日本100名城 脇本城』をめぐる歴史』についての講演を拝聴した。

内容は、男鹿半島には、中世、北東北日本海を支配し最終的に秋田を本拠地にした安東氏の足跡が城館・神社・寺院などに多く残されているが、脇本城は近年、戦国時代の安東愛季の城として宣伝されている。その脇本城の特色・魅力は、

ア 中世に築かれた山城で土作りの城である。

イ 日本海を望む要害の地に立地している。ウ 城遺構全体を見渡すことができ平地の館をそのまま山上に持つてきたと想像される。

講演後の質疑応答では、講師へ会員から多くの質問が出されただけでなく、会終了後も講師を囲んで話し合う姿が見られた。

Ⅱ潟上市・南秋田郡だよりⅡ

最後の郡市だより

事務局長 佐藤 信幸

○総会

四月二十五日に開催予定の総会を新型コロナウイルス感染予防のため中止する。そこで、六月九日必着で書面総会と解散に関するアンケートを実施する。

七月十六日の第一回理事会で書面総会と解散に関するアンケートの事業監査と報告を行う。七月三十日に潟上市・南秋田郡退職校長会の解散について秋田県・各郡市退職校長会および関係各小中学校・義務教育学校校長へ通告した。

○合同教育懇談会

現職校長との合同教育懇談会も、新型コロナウイルス感染予防のため中止する。今年度が本会にとって最後の年度だっただけに、実施できないことは大変残念であった。

十一月に会員に会報原稿の依頼をし、三月三十一日の会報発行を目指している。また、解散に向けた細部について理事会等で話し合いを行い、四月の解散総会実施の準備を進めている。

当会の今年度での解散で、関係各位には、大変ご迷惑をおかけし申し訳なく思っている。これまでのご厚意に感謝申し上げ、また、秋田県・各郡市退職校長会の益々の発展を祈念して最後の郡市だよりとしたい。

Ⅱ秋田市だよりⅡ

今年度を振り返って

事務局長 加賀美 俊一

今年度は、コロナ禍により、ほとんどの活動が延期・中止となった。

例年四月に行われる総会は、理事会に替える予定であったが、緊急事態宣言の期間中ということもあり、理事会も中止して理事から書面で決議を得るという異例のスタートとなった。

十一月に予定していた現職・退職校長会教育懇談会は、多忙を極める学校現場に配慮し来年度に延期となった。「楽しい研修」も何とか一つは実施したいと準備を進めた企画もあったが、十二月以降、秋田市でも感染者が増えてきたこともあり、すべて中止となった。そんな中で、会報は、会員の寄稿への協力や担当幹事の尽力で、年二回発行することができた。換気や手指消毒等の安全対策をして六回行った幹事会では、会員の声をできるだけ載せる会報の内容の検討や令和三年度以降の活動の在り方についての意見交換等、これまでより中身の濃い話し合いができた。数少ない収穫といえる。

一日も早いコロナ禍の収束を願いながら、できることから活動を進めていきたいと思っている。

〓 由利本荘・にかほだより 〓

コロナ禍の令和二年度

事務局長 米 持 隆 司

「今年度の総会を開催するのか。するとしたらどんな形でするのか。それとも中止の線で行くのか。」

新型コロナウイルス感染拡大予防のために緊急事態宣言が全国に拡大された中で、今年度は始まった。このコロナ禍の中で、本会の運営をどのようにしていくかが大きな課題であった。

本会の事業は、『総会及び講演会』『退職・現職校長交流研修会』『会報の発行(年二回)』『学校教育活動支援』等である。

この中で計画通り実施できたのは、『会報の発行』だけであった。どうしても三密になる他の事業は、中止せざるを得なかったのである。

例年、『退職・現職校長交流研修会』では、退職校長と現職校長の実践発表、その後懇親会があり、皆さんが楽しみにしている事業である。それだけに開催できないことを残念に思った会員は多かった。

本会会則第二条に『この会は、会員の親睦を図るとともに、秋田県並びに由利本荘・にかほの教育に寄与することを目的にする。』と記されている。コロナ禍の中、この目的の遂行に悩んだ今年度であった。

〓 大曲仙北だより 〓

この一年

事務局長 小 原 靖

今年度はどこも同じくコロナ禍にあつて、総会はじめ、人が集まつての事業はほぼ中止となつた。(理事会も総会も紙面配布で承諾いただいた。)

事務局はオンライン会議を数回開催し、会報の発送作業に集まつたくらいだった。

県南教育懇談会も横手、湯沢雄勝支部に承諾いただいて中止にさせてもらった。来年度に延期の形になると思つてゐる。

大曲仙北内の各支部(旧市町村)持ち回り担当の研修親睦旅行も来年度に延期の形をとつた。

現職校長会と行つてゐる行事も今年は中止となつた。

同好会活動については、アウトドアのゴルフ同好会は2回のコンペ開催し、グラウンドゴルフ同好会は1回の大会開催した。

とにかく、連日のコロナ話題でどの支部も制約があつて活動できなかったと思う。

郡市の報告も「中止」「中止」ばかりで活動できないことの報告となつてしまった。

来年度は何かしら活動ができることを祈るのみだ。

〓 横手市だより 〓

コロナ禍でのこの一年

事務局長 石 川 真須夫

○第一回役員会(四月十五日)

コロナ禍による国からの緊急事態宣言発出を受け、例年五月に開催している総会の持ち方について役員会を開き満場一致で中止を決定した。前年度の会務報告や決算報告、今年度の事業計画や予算案等については、書面による決議にさせていただくことにした。

○第二回役員会(六月十九日)

現職校長会との共催事業である「教育を語る会」の開催可否について本会としての対応について話し合いをもつた。

この事業もコロナ感染防止の観点から中止もやむを得ないとした。

○現職校長会との打ち合わせ会(七月七日)

教育を語る会の開催について、現職校長会の役員の先生方に本会の意向(中止)を伝え了解を得た。

○振り返つて

新型コロナウイルスの感染防止の観点からこの一年、事業らしいことは何一つ実施することが出来ずとても残念でなりません。来る令和三年度は多くの会員の参加のもとに事業を開催できることを願うばかりだ。

＝湯沢雄勝だより＝

今年度の活動を振り返って

事務局長 滑 川 道 彦

今年度初め、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県の役員会や総会が書面決議になり、萌友会でも同様に対応することになりました。また、例年主たる事業となっていた現職との研修・交流会も早々と中止が決まりました。そんな中でしたが、4人の新会員を迎えておりましたので、地区内で感染者が出た場合は中止することを条件に開催することとなりました。当日は例年行っている親睦レクリエーションも一緒に行うことにし、10月21日(水)午後、親睦パークゴルフを実施しました。感染対策をしながら会場に集まった皆さんには笑顔がみられました。様々な会の集まりが中止になり、自宅での生活が多くなっていたからかもしれません。コースを回りながら楽しそうにプレーをしている姿が見られました。その日の夕方、4人の新会員を歓迎する会を開催しました。参加者は感染に気をつけながら趣味やボランティア活動など、退職後の多岐にわたる暮らし方を話題にしていました。

本会が存続していくためには、会員の交流が最も大切だということをしみじみと感じたひとときでした。

会員の(ご)逝去 (敬称略) 心からご冥福をお祈りいたします。(95号以降)

氏名	年月日	住 所	氏名	年月日	住 所
前田 満男	2・7・10	鹿角市花輪字寺ノ後	鈴木 文雄	2・9・7	由利本荘市鶴沼
長内 茂昭	2・11・30	鹿角市十和田毛馬内字毛馬内	(正六位)		
織田 育生	3・1・23	鹿角市花輪字下中島	齋藤 昌司	2・10・21	由利本荘市西沼田字新道下
桑山 隆雄	2・6・24	大館市字上町	(従六位)		
金森嘉次郎	2・7・20	北秋田市綴子字田中	土倉 和夫	2・10・26	由利本荘市田町
谷川原勝之	2・7・21	大館市立花字街道脇	相庭 廉	2・11・14	由利本荘市御門
田中 勇	2・11・24	大館市有浦一丁目	(正六位)		
川井 康司	2・12・7	大館市字八幡沢岱	鶴沼 昭夫	2・12・17	由利本荘市中梵天
水澤 孝則	2・12・23	大館市十二所字十二所町	三浦 康	3・1・14	由利本荘市古雪町
吉成 尚親	3・1・3	大館市十二所字上城	山口 心海	2・9・17	仙北市角館町西勝楽町
小野 奎司	3・1・9	大館市字館下	中村 秀男	3・2・21	大仙市板見内字君信
金谷 信一	2・7・14	能代市向能代字上野越	佐々木 保	2・7・26	横手市雄物川町
(正六位)			伊藤 守	2・8・26	横手市柳田
加藤 鑽蔵	2・7・26	能代市田子向	武茂 昭二	2・9・2	横手市安田
大山 幹男	2・10・13	能代市字昇平岱	斎藤純一郎	2・9・3	横手市安田
三浦 幸郎	2・10・14	能代市花園町	梅内 秀彌	2・10・6	横手市増田町
石井 秀之	2・10・31	能代市字赤沼	宮野 芳雄	2・12・12	横手市幸町
船木 鉄雄	2・12・3	男鹿市船越字寺後	矢野 茂治	2・9・2	湯沢市湯ノ原
分銅 吉朗	2・12・21	五城目町字鵜ノ木	高橋 功	2・9・11	湯沢市内町
佐々木宏明	2・7・5	由利本荘市石脇字下長老沼	齊藤将太良	2・11・13	湯沢市稲庭町字稲庭
須田 晃	2・7・25	にかほ市象潟町上狐森	門脇 忠治	3・1・28	湯沢市清水町
小笠原諒治	2・8・23	由利本荘市葉師堂谷地	畠山 榮	3・2・8	湯沢市前森
(従六位)					

【特別企画】

新しい生活様式を踏まえたこれからの学校教育の在り方 ～ポストコロナ・ウィズコロナ時代の学校～

令和2年の年は新型コロナウイルス感染防止のため、様々なことが中止や延期を余儀なくされました。本退職校長会においても、一同に会しての研修会事業を延期しております。また昨年7月発行の本会報第95号では、現職を退職なされたばかりの新会員並びに会員の方々から、令和元年度末の学校状況や休校中の教師の愛ある取組の一端が紹介されました。そのご苦労や子どもたちへの深い愛情に心打たれた方も多いかと思います。

そこで本号は、コロナ禍にあって、「ポストコロナ」「ウィズコロナ」という言葉に代表される新たな生活様式の中、今後の学校教育はどうあるべきかを会員の皆様とともに考えていく機会にしたいと思います。

未曾有の災害とも言える現状については、当然のことながらほぼ全会員が未経験です。授業研究を軸にした学校づくりという専門性を維持しつつ、今後どのような学校像や教育の未来像を描いていくべきなのか、教育の専門家、現職校長の方々からのお考えを伺いたいと思い、本企画に取り組みました。

【特別寄稿】

「大学での教員養成教育と 新型コロナへの対応」

秋田大学教育文化学部部長
同 大学院教育学研究科教授



佐藤 修 司

二〇二〇年は新型コロナウイルスの感染拡大により、予想だになかった事態となりました。卒業式に続いて入学式、ガイダンスも中止となり、さらに、大学構内は入構規制が行われ、学生は入構さえできなくなります。前期はすべて遠隔授業となり、その準備のために前期の開始が4月9日から5月11日に延期されました。その間にZoomのライセンスを教員全員分確保し、Zoomを使った同時配信によるライブ方式とともに、録画したものをアップして見たいときに見られるようにするオンデマンド方式のやり方も講習会を行いました。また、数年前に導入して一部の教員しか使っていなかったwebclass（ウェブクラス）というwebシステムを使い、教材やテストの作成・配布、レポート提出や成績データの集計等を行うことも初めて学びました。

実際に授業が始まって、教員、学生の双方

が慣れてくると、遠隔授業も意外と便利であることが分かってきました。対面の時のような黒板が遠い、字が小さい、読めない、教員の声が聞き取れない、私語がうるさいなどの問題はあまり起きません。オンデマンド方式はもちろんですが、ライブ方式でも録画してアップしておけば学生はいつでも復習できます。Zoomのブレイクアウトセッションの機能を使えば、簡単に一定人数のグループに学生を分割してグループ協議を行わせることができますし、教員は各グループを渡り歩いて協議の様子を観察し、アドバイスもできます。セッションを解除すれば、全員がまた一同に会して、各グループの協議の結果を報告してもらうことも簡単です。講義的な部分は事前に録画してアップしておき、通常の授業時間はZoomで協議だけを行うといった反転授業も行えます。県外さらに国外の人でさえ講師として、学生として参加してもらうことが可能です。

ただし、講義的な部分については、ライブであれ、オンデマンドであれ、熱心な学生はいいものの、そうでない学生は本当に真剣に聞いているかどうかチェックできません。感想レポート、小テストなどを毎回webclassで出してもらおうとしても、限界があります。教員側も、学生の様子を確認しながらしゃべることはできにくく、対面の時のようには行きません。また、理科や体育などの

実験や実技は、映像を見るだけでは厳しいものがあります。教育実習などはもつと大変です。幸いなことに、秋田は感染が抑えられていたこともあり、8月終わり頃から実習を実施することができました。それでも、一斉休校などで授業が遅れるなどした公立・附属学校園の負担を考慮して、実習の日数を減らしたり、研究授業をなくして参観のみにするなど、例年のようにはいきませんでした。

後期になると入構が可能になり、対面授業と遠隔授業の併用となりましたが、三密(密閉、密集、密接)回避、マスク着用、手指消毒、換気の徹底が求められ、教室は1.5m程度の間隔を空けるため、定員の3〜4割程度しか学生を入れられません。また、一日の内に対面授業と遠隔授業の両方があると、大学と自宅とを往復することもできないため、遠隔はライブ方式ではなく、オンデマンド方式にすることとなりました。ライブ方式でやる場合も、録画してアップすることが求められます。

二〇二一年度は、附属小学校・中学校・特別支援学校に一人一台のタブレットが整備されます。すでに二〇二〇年の5月には一クラス一つのZoomライセンスを配布しています。これらを十分に活用した授業が、公立のモデル校であるべき附属において先進的に展開されなければなりません。この変化は同時に教育実習のあり方、そして、教員養成力リキウムや授業方法の改善に連動します。また、教員免許状更新講習は今年度オンデマン

ド方式となり、来年度はライブ方式を含めながらも、遠隔で行うことが決まっています。教員研修にどのようにICT活用を盛り込むか、県総合教育センター、秋田市教育研究所などとも連携した取り組みが必要です。

来年度からは学生全員がPCを持って大学に来て授業に参加することになります。遠隔の場合、オンデマンド方式だけでなく、ライブ方式もやりやすいようにする、ということもあるでしょうが、対面の場合であっても単にパワーポイントを使うにとどまらず、ICTを活用したより洗練された授業が必要になるでしょう。教員養成に限らず、大学教育全体のデジタル・トランスフォーメーションが必要になってくるのです。ただ、そうして多くの学生が大学に来ることになれば、三密の発生が起きやすくなります。自習室や昼食、生協食堂をどうするかなど、まだまだ課題は山ほどありそうです。

【特別寄稿】

「コロナ禍でのカリキュラムのスリム化、学びの幅の拡張と学校の知識創造」

東北大学大学院教育学研究科教授

有本 昌弘

最近の少人数学級化推進の背景にはパンデミックがある。新たな生活様式に基づいた学校運営、学校行事のスリム化、オンラインでの教育・学習など、前例のない変化が求められている。

一方、OECDの調査によると、48の国と地域の中で、日本の教師が週に最も長い時間を費やしており(週56・0時間(前回53・9時間)で、参加国平均の38・3時間を大幅に上回った)、重労働がますます問題になっているという。さらに、「学校のICT環境整備状況は脆弱かつ危機的な状況」にあり、「学校の授業におけるデジタル機器の使用時間はOECD加盟国で最下位」で、「世界の後塵を拝している状況」というものだ。

(1) 形成的アセスメント (Formative Assessment)

まずまずグローバル化し、デジタル化した世界に直面する子どもたちを支援するために、英語が正式教科になり、コンピュータ・プログラミングが必修化された。同時に、子どもたちが自分の考えを深め、伝える力を養うことが奨励されるようになった。この新しい教育への効果的なアプローチとして形成的アセスメント(FA)が注目され世界の潮流となっている。

FAとは、①我々はどこにいるのか ②我々はどこに行くのか ③我々はどうやってそこに行くのか、という「問い」を立て、(これらの問いに導かれた)「自己内対話」「他者

との対話」を通して学習を深化させるプロセス、のことである。日本は暗黙的に学校内外の組織の中で、FAを実践し、授業研究等を通して洗練させてきた歴史を持つ。興味深いことに、教室での対面授業では発問が最も利用されていたのに対し、オンライン環境では口頭と書面によるフィードバックがFAの主要となりつつある。

(2) 日本のFAと授業研究、カリキュラムデザイン

日本のFAと授業研究はさらに世界を魅了する可能性がある。筆者は大震災後、日本の教育を英語で海外に発信することを最優先してきた。これまでもEduport Japanなど日本の教育経験を輸出する試みはあり、UAE（アラブ首長国連邦）をはじめ多くの国で掃除活動などが普及した。その最も成功した事例と言われ、人口増加が喫緊のタスクとなっているベトナムからは、ESD（持続可能な開発のための教育）と教員養成の相互協力の要請があった。また最近エジプトの大学からも問い合わせがあった。日本政府の奨学金に応募し、大学院修士課程で、人口爆発、汚染や健康、貧困、経済と市民資質を中心にしたSTEM教育（科学・技術・工学・数学の教育分野）について日本から学びたいというのである。

ここで考えられることは、日本独特のFAをふるさと教育、さらには先達の教育遺産である郷土科と結び付け、授業研究を通して洗

練させることである。その上で、北欧で開発されたFAのアプリKahootやMentimeterなどを利用し、オンラインで「問い」を周りに仕掛け、日本や世界の仲間を巻き込む。ここでは、「問い」への振り返りとフィードバックを短く繰り返すことにより、対面では仲間との同調行動が苦手で不登校ぎみな児童生徒でも、学びが（個人化し）個別最適化できると同時に、集団や組織の中での相互の学びの所有感（オーナーシップ）が醸成される。

(3) ポストコロナ時代の学校

医療関係者は感染症を火事に例えることがある。火事（コロナ）に対して一生懸命消火している。退院した段階は火が消えた状態。でも考えてみると、火が消えても家がない。これはコロナと同様、データもスキルも構成員の価値信念もアイデンティティも関与する教育の複雑な営みでもある。

建て直しを可能にするのは何か。学習の遅れを取り戻すための「詰め込み」か、あるいは「テスト」を活用した学力競争か。そうではない、教育は信頼（トラスト）を基調とした人々のネットワーク「関係」によって再建される。秋田における「教育の正常化」の歩みはそれを雄弁に物語っている。

コロナを契機にFAの有効性や遠隔教育の実現可能性についての認識が深まりつつある。デジタル庁が創設され、IT導入によりハンコ文化の継承も変わりつつある中、リモートワークが定着する動きが高まり、働き

方が大きく変わる。その一方で、コミュニケーションが密に取れない、対応が必要なメッセージ、会議、ツールの増加による勤務時間の増加、組織力や生産性の低下、といった課題を感じる人が増えるという懸念も生じてきている。

ただ学校は、企業のように、業務効率化のみで成り立つわけではなく、世代間を超えた対話と暗黙知としてのFAが不可欠である。

学校と児童生徒・保護者との信頼を基調とした秋田の実践知は新時代を切り拓く知識の宝庫である。これを筆者は21世紀型スキル2.0として理解を深めつつ東北から世界へ発信したいため、業務委託し研究協力いただける『クラウドソーシング』を企画中です。（<http://jaifn.com>）を参照いただきたい）

【特別寄稿】

「コロナ禍における

今後の教育活動の展望」



秋田市立城南中学校長

長 沼 優

世の中は新型コロナウイルス感染症の猛威に翻弄されています。学校生活は、何よりも三密を避けることを最優先しており、授業で

は対話的として重視してきたペアやグループでの活動を見直しています。本校学習指導部では、次年度へ向けて文字言語の積極的活用と、個別学習や一斉指導の充実にも目を向けることにしました。文字言語は自覚しやすく記録に残るという特徴を生かし、カードやボードを使った情報の可視化、一人で熟考する場面や効率よく考えるための手立て、学級全体の話し合い活動などに、様々な工夫が必要と考えています。さらに、ICTの積極的な活用も視野に入れています。

令和二年度中に生徒一人あたり一台のタブレット端末が揃うことになりました。今後はオンライン授業の準備も急ピッチで進めていかねばなりません。本年度、本校では小中連携による職員研修会を、Zoomを活用したオンラインによって開催しました。また、私が副会長を務める秋田県中学校体育連盟では、現在ほとんどの会議でZoomを活用し、昨年十一月には、全国規模の研究大会をホスト県としてオンラインで開催しています。私自身すでに抵抗がなくなりましたので、生徒の吸収の早さは我々の予想以上と考えます。まずは「習うより慣れろ」です。現在ICT担当を中心に、オンラインを活用した新たな教育実践の企画の真最中です。オフラインとオンラインのハイブリッド化も、近い将来に現実となることでしょう。

コロナ禍ではありますが、生徒も職員も明るさを失うことなく、日々の生活に懸命に取り組んでいます。

コロナに負けるな！元気な秋田っ子

写真は、秋田市立東小学校（嵯峨房和校長）の子どもたちです。日頃からマスクの着用、うがい、手指のアルコール消毒、検温の健康観察による体調管理など、万全な感染予防をとって、毎日の学校生活を元気に頑張っています。



り組んでいます。そんな中、年明け早々にビッグニュースが飛び込んできました。十五歳以下のジュニアウインターカップ全国大会で、本校男子バスケットボール部が記念すべき初代王者に輝いたのです。困難や逆境に対し決してあきらめることなく、目標達成へ向けて直向きに努力する心の強さを、身近にいる自分たちの仲間が示してくれたことは、城南中にとって誇りになるとともに、一人一人の大きな自信にもなりました。

「型破り」という言葉がありますが、型を知って破るから効果が表れます。型を理解しないまま自己流で無茶をする「型なし」にならぬよう、不易と流行をしつかりと見極めたものです。コロナに怯まず、ピンチをチャンスに変える発想で、新たな城南プライドの創出に取り組みたいと思います。

■リモート講演会（6年）

「気象予防士に学ぶ」というテーマで、遠方の方と双方向の会話ができるzoomを使った6年生の講演会。講師は秋田出身で東京在住の気象予報士の村木祐輔氏。



会員寄稿

じわり生きがい

このひととき

「老後の学級担任」

鹿角
金澤 憲一

退職後、鹿角市教育委員会関連の仕事をさせていただいています。現在は、適応指導教室の指導員です。この仕事は楽しいです。極少人数学級の学級担任のようなものです。私は講師の期間が長く、採用後は学級担任をほとんどできませんでした。とても残念に思っていました。もう一度学級担任ができるということはどういうことでしょうか。

通級してくる子ども達は、私の前では普通にしています。学校に行けないという負い目を持ち、保護者が発する悩みや焦りに晒され、気持ちがとても敏感になっています。彼らの学級担任であるためには、心と体をよい状態にし、気持ちをできるだけ整えておくことが大切だと思っています。彼らが教室に入ってきたとき、にこやかに「いらっしゃい」と声をかけるのですが、この場面に多くのことが凝縮されているように思います。

現職の頃からランニングをしていました。

ランニングは心と体をリセットしてくれます。一時間走を週に数回。走った日の晩酌は好きなだけ飲めるというマイルールです。ここ数年は、足への負担が軽いウォーキングに切り替え、早朝（深夜？）ウォーキングをしています。お気に入りのラジオ番組を聴きながら歩くと三時間を超えるときもあります。知人からは徘徊老人と笑われます。毎日歩くので、体重が四キロ減、体脂肪も3%減り、お酒も美味しくいただけます。心と体を整え、今日も来室者を待ちたいと思います。

（平成二十八年三月退職）

「湯けむり 呑めぐり」

大館北秋田
山田 俊逸

五城目町での全県春季以来二十数年ぶりに滑多羅温泉赤倉山荘へ。大会や遠征では子ども達の体のケアを考え温泉によく泊まった。青森三本柳、小安峡・滝・東トロコ・大湯・森岳・船沢、田沢のスポセンも温泉だった。

家族とは特に秘湯巡り、北海道丸駒、青森猿倉・蔦・温川、岩手国見・夏油・松川、宮城峯、福島野地、大館日景、秘湯を守る会会員として十個スタンプをもらえば一泊無料の恩恵にあずかったこともある。名湯や隠れたいで湯で宿泊したのは、北海道ウトロ・川

湯・層雲峡・十勝川・豊富・登別・定山溪、青森浅虫・馬門・古牧・下風呂・南田・黒石・大鰐・百沢・鯉ヶ沢・黄金崎不老不死、岩手八幡平・安比・玄武・厳美溪・金田一・繋・花巻・志戸平・鉛、山形湯野浜・湯田川・銀山・天童・上山、宮城鳴子・秋保、福島飯坂・磐梯熱海・芦ノ牧・いわき湯本、新潟瀬波・月岡、栃木塩原・鬼怒川、群馬草津、神奈川箱根湯本、静岡熱海・伊東・堂ヶ島、長野下諏訪、石川和倉、福井芦原、愛知西浦、兵庫有馬、京都湯ノ花、鹿児島霧島等々。

十一年前につがいが突然飛び立ってしまったしばらく封印していたが、再開後は月一平均で県内中心に湯めぐりしている。一風呂浴びたあとにぐびーっとやりたくて一泊（ときには連泊も）、密を避ける意味でも出来るだけ鄙びたマイナーな、リーズナブルな湯治プランのあるところ。大内ばぼろっこ、金浦学校の栖、秋田貝の沢、大館清風荘、能代湯らくの宿、三種ゆめろん、横手雄川荘。孫達とはちよつぱり贅沢にサンルール大湯、象潟さんねむ温泉へ。近々、つがいと最後になつてしまった夏瀬温泉都わすれを計画している。

（平成三十年三月退職）



「墓地巡り」



能代市山本郡

竹内 秀樹

退職後、墓地を訪ねる旅が多くなった。例えば、著名人が多く眠る東京の谷中、染井、雑司が谷の各霊園。また、江戸時代の小塚原刑場での刑死者を埋葬した両国の回向院や、同院が手狭になったため創建され吉田松陰の墓もある千住の別院回向院の墓地など。

そのような墓地巡りで心に残るのが正岡子規の故郷、松山市の旅だった。明治28年10月、子規は曾祖母の墓参をしたいと夏目漱石を誘い、道後温泉本館から坂道を上がった所にある鷺谷墓地を訪れている。私もその墓地に行くことにした。そして、子規がその高台で詠んだ「稲の穂に温泉の町低し二百軒」のような雰囲気を味わってみたいと思ったのである。結局、墓は見つからず「花芒墓いづれとも見定めず」の句を残す。私は墓を探す二人を思い浮かべながら墓地を歩いた。そうして子規と関係の深い秋山真之の兄、好古の墓に出会った。陸軍大将までなった人の墓にしては大きくなく質素に見えたが、そこに好古の人柄が表れているように思った。

後日、東京田端の大龍寺を訪れ、子規の墓参をしたが、そばに母、八重の小さな墓を見つけた。墓は傾いてはいたが、しつかりと立っていた。その墓と、命が尽きる間際まで文学

に打ち込む我が子を最後まで支えた小柄な八重の姿が重なって見え、感動を覚えた。遠出ができなくなった現在、近くにある墓地公園を歩いている。その散歩中、墓石の正面両端に「官軍」「秋藩」と刻まれた墓を見た。側面に目をやると、風化や汚れで読めない文字もあったが、「討死」と「慶応四戊辰年九月」は読み取れた。時間は十分にあるので調べて見たいと思っている。

(平成二十五年三月退職)

「じわり生きがい」



男鹿市

鈴木 誠孝

充実した第二の人生を送るために、挑戦しようと思ったことは稲作農業であります。

退職後、すぐに農機具購入やビニールハウス設置などを一から始め、今年で4年目になります。現在、経営的にはまだまだ赤字ですが、覚悟を決めて取り組んだ第二の人生、自然を相手に一喜一憂しながらも生きがいを持って取り組んでいるところです。60歳を過ぎてからの稲作農家に家内からはずいぶん反対されましたが、今では協力してくれています。

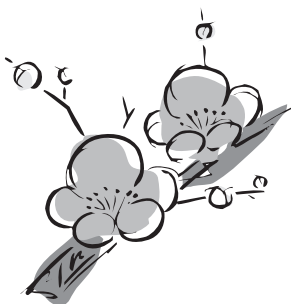
開業の1年目は小作させていた自己所有の2.5haの農地があったので、それを活用して

スタートしました。しかし、秋の台風で、新しく建てた育苗ハウスが倒壊するなど苦労が多かった1年目でした。経営を軌道に乗せるため、2年目は3.5ha、そして、3年目の昨年は6.2haに耕作面積を拡大しました。また3年目には秋の収穫の乾燥調整設備も自前で完備・増設しました。農機具を中心に多くの資金を投入しましたが、4年目の今年は耕作面積が7.3haとなります。今後の目標は、10haの稲作農業であります。

若い時から退職後は米作りをしたいと思っていたので、好きなことを第二の人生として選択できたことは幸せだと思っています。人類の食を支え、基盤をつくっているのは農業。農業は人類繁栄の根幹であります。少しでもその一助となればと思い日々頑張っております。

そして、「知、好、楽」のこわりを噛みしめながら、農業というものを深く知り、さらに好きになり、そして楽しむことの境地が第二の人生に意味を与えてくれています。

(平成三十年三月退職)



「私と音楽」



潟上市・南秋田郡

伊藤 薫

今年のNHK朝ドラ「エール」は、古関裕而を中心とする物語だった。元来音楽好き歌好きな自分なので、毎回楽しみだった。ヒット曲は、作曲者はどれも思い入れがあるが、なかなか思い通りにならないことが、ドラマでよくわかった。

私の好きな曲は、早稲田大学応援歌「紺碧の空」「長崎の鐘」（これは、亡き母が大好きな歌だった）「栄冠は君に輝く」。

刑部芳則著「古関裕而」流行作曲家と激動の昭和（中公新書）によれば、昭和二十二年三月に、長谷川幸延原作「音楽五人男」というミュージカルドラマが作られ、その主題歌として「白鳥の歌」が生まれた。若山牧水の短歌「白鳥は悲しからずや空の青 海の青にも染まずにただよう」に曲をつけた。古関は「自分の作品の中で一番好きな歌は何か、と聞かれれば、私はこの『白鳥』をあげますね。私はこの曲だけは、誰にも負けない優れたものだ」と密かに自負しているんですよ。」ドラマの場面では、福島出身の三人が亡き恩師を偲んで、川の子に寝て話し合っているところ

です。振り返って、中学・高校・大学の授業の中で一番楽しく思い出に残っているのは、音楽

の時間である。中学では、伊藤キク先生というベテランの女の先生である。先生の弾くピアノで、友と一緒に歌った歌が思い出される。高校では、二年次の時佐々木竹治先生の授業で、世界の名曲をうっとりとして聞いたことが浮かんでくる。また先生の作曲した、「創立八十周年の歌」を思わず口ずさむ時がある。また、大学時代では、今は亡き小野崎晋三先生が、授業後自分のために、月光を弾いてくださったことである。

（平成十九年三月退職）

「若者の危機管理能力の感服」



秋田市

乳井 康雄

東日本大震災から十年、その日私は秋田駅東アルヴェ五階で勤務中でした。携帯電話の警報に気が付き、職員に身構えるよう声をかけたのですが、床が五・六十センチも前後左右に動き、上からはバラバラと埋め込み電球の枠が落ちてきて、天井落下を覚悟した生きた心地がしない五分間に耐えました。寒空に二時間ばかり立ちつくした後、結局ガラス張りのアルヴェは危険という判断で退去命令が出ました。ところが夜半、ラジオでアルヴェに避難者が集まっているとの報道があり、再び出勤することにしたのです。アルヴェには

強力な自家発電設備が備わっています。真つ暗闇に不夜城の如くそびえる容姿を頼もしく思うのは当然でしょう。館内には電車の利用客の他に近隣のアパート、マンション住まいの方々六〇〇名超が所狭しと座り込んでいました。トイレも使え、寒さもしのげる館内は最高の避難所でした。職員が次々に集まり、段ボールや毛布、乾パンなどの確保と配付に働きました。午後には炊き出しが始まり、テレビも据えられて悲惨な情報が次々と入るようになりました。若者達が機動力を発揮し始めたのは携帯電話充電ステーションが設置されて間もなくでした。誰が声をかけるでもなく広場中央に集まり、互いに情報を交換し合って市内はもとより、遠方市町村のレンタカーや観光バス会社に片っ端から連絡を取りだしました。自らバスをチャーターし、避難者に声をかけ、ボードに同乗者募集中の書き込みを始めたのです。その結果、三日目の午後までにはほとんどの避難者が安全な日本海側経路を使い、引き潮の如く次々と秋田を去って行ったのは実に見事と言うしかありません。以降私の若者を見る視点が変わりました。

（平成二十二年三月退職）



「出前授業とジオパーク」



由利本荘・にかほ

板垣弘勝

『ジオパーク認定を受けている秋田県と山形県にまたがる「鳥海山」ですが、皆さんは何と呼んでいますか？秋田県では「ちようかいさん」ですが、山形県では「ちようかいざん」と呼んでいます。同じ山でも、秋田県側から見るのは「ちようかいざん」で、山形県側から見るのが「ちようかいさん」です。』依頼を受けた「大人の登校日」の出前授業は、こんな話から始めました。

「大人の登校日」は、由利本荘市が希望者を対象に実施している事業で、閉校した木造校舎の教室を使い、小学生の頃を思い出しながら授業体験をしようという取り組みです。

鳥海山・飛鳥ジオパークが認定されて四年。

この間、ジオパークへの理解を広める活動や理科学習への手伝いで、小学校の出前授業に呼んでいただく機会が多くありました。外に出かけて現地を観察したり、教室で資料を提示して解説や実験をしたりして、大地のつくりについて理解を深め、ジオパークへの関心も高めてもらおうとするものです。

「大人の登校日」では、小学校で行った内容を基に、鳥海山や身近な大地と結びつけて構成しました。噴火の再現実験にはコーラを使います。地下のマグマだまりを模したコー

ラが圧力を高め、鳥海山に見立てた砂山から噴き上がる様子は噴火そっくりなのです。各種メディアでも紹介され、広く知られている「メントスコーラ」を活用した実験ですが、この演示では一様に歓声が上がります。四十数年前、大学入学で所属した地学教室が今日に至る始まりであったかと、出会いの不思議さを感じつつ、これからも依頼があれば出前授業で役に立ちたいと考えています。

(平成二十九年三月退職)

「クルーズ旅行と秋田のおもてなし」



大曲仙北

茂木達彦

令和元年九月三十日。私は横浜港発着のクルーズ船「MSCベリッシマ」の船上からビールを片手に、遠方にかすむ景色を楽しんでいた。秋田を寄港地に含む九泊十日のクルーズ旅行の始まりである。

航路は①横浜②函館③秋田④金沢⑤釜山⑥長崎⑦徳島を経由し横浜に帰るというものである。クルーズ船のよさは、移動に伴う負荷が最大限に軽減されること（目が覚めると目的地に着いている）ジャズやフォーク、ポップス等の生演奏を楽しめる数多くのバーがあり、シアター、カジノ、演劇等、退屈している暇がないほどのイベントが毎日催されていること。ディナーでドレスコードの日が二日設定されるなど、非日常が味わえること。そして何よりも嬉しいことは十ドル以下のアルコール飲料は無料であったことである。ディナーを共にする二組のご夫妻と夜な夜なバーを巡り歩いては、多国籍のスタッフやシンガー、店に集う同胞と心を通わせる一瞬を共有できたことは財産である。

秋田県はクルーズ船の誘致に力を入れていると聞く。船客の立場から見たおもてなしの実際は、秋田を誇らしく思える内容であった。クルーズ列車に手を振ってくれたおばあさん。秋田駅での民謡と手踊りのお出迎え。なにかいでの竿燈体験。そして、出航する際の県警吹奏楽団によるパフォーマンスにはつい涙腺が緩んでしまった。評判は三星級。船影が見えなくなるまで手を振ってくれた楽団員のシルエットが忘れられない。

(平成二十四年三月退職)



「五十五年来の友」



横手市

菊谷隆志

退職後の社会貢献として夏・冬休みの子ども教室、保育園理事、市政協力員、社会福祉協力員などを引き受けてきた。下手の横好きで、囲碁・写真・山菜採り、釣りなど趣味もある。でも、話は一つに絞ろう。

クラシックギターを手にした時、「ぼくはしばしの間、子供だけが感じることできる、あのなんともいえぬ、むさぼるような、うっとりとした感じに襲われる。」

(ヘッセ『少年の日の思い出』より)

クラシックギターの、温かくしっとりとした音色が何とも言えず好きだ。家の中でいつでも演奏でき、あまり大きな音は出ないため(欠点でもあるが)人の迷惑にならない。少年時代、その音色に魅せられて始め、弾き続けて今日に至っている。あまり熱心でない時代もあったが、平成十八年にひと月分の給料では手が届かないヤマハGC60を購入した。受注生産で半年近く待たされ、届いた時の顔は、まるで中学生のようであつたろう。通算六台目のこのギターで、気に入った曲を弾いたり、楽譜をめくりながらいい曲を探したりするのが、毎日の楽しみである。

フォークギターでコードを弾きながら歌う人はどこにでもいるが、クラシックを弾く人はたいへん少なく、仲間を探すのに一苦労である。一人では限界がある曲などを二三重奏でやりたいと思つても、なかなかできないのだ。また、簡単な曲でも合奏すると、独奏では味わえない喜びが生まれる。これはギター以外の楽器と演奏しても同じだ。独奏による自己満足もよし、合奏による人との繋がり、連帯感もよし。ギターを以前弾いていたという方など、一緒に楽しみませんか

(平成二十五年三月退職)

「コミュニティ・スクールの構築に携わって」



湯沢雄勝

鈴木慎二

退職した平成三十年の五月から、湯沢市のコミュニティ・スクール(以下CS)に係る業務に就いています。CSは、「学校と地域が協働で児童生徒を育む仕組み」といえます。今年度で三年目となりますが、計画通り市内全小・中学校十七校がCSとしての取組を始め、一区切りついたところです。

この仕事を通じて、喜びや生き甲斐を感じたことがたくさんあります。ここでは、二つ紹介したいと思います。

一つ目は、教員としての経験が活きて、学校の役に立てていると実感したときです。仕組みづくりの段階で最も重視したことは、各学校や地域が無理なく継続できるものにすることでした。そのために年間業務の明確化や関係書類の簡略化を図り、一冊のハンドブックにまとめ、スムーズに推進できるようにしました。各校がそれを活用して推進していると確信したときは、嬉しく思いました。

二つ目は、この業務を通じて人との交流を深められたときです。様々な立場や世代の方々と触れ合つて、共通の目的に向かって活動しているときは充実感がありました。これこそCSの本質だと気付き、「みんなでつくる 子どもたちの輝く未来」というCSのキャッチコピーが浮かびました。

業務は今年度いっぱい退くつもりです。こんなに楽しいことを一人占めするわけにはいかないからです。そして、新しい感覚をもった方にさらに改善してもらい、CS制度がより充実していくことを願っています。

来春からどんな生活になるか、ワクワクします。できるだけ多くの方々と関わり合い、楽しい時間を過ごせたらいいなと思います。

(平成三十年三月退職)



おめでとうございます
(順不同・敬称略)

祝 叙 勲

氏 名	現 住 所	功 勞	種 類	受 章 日
滝澤 将弘	横手市大雄字田根森	教育功勞	瑞宝 双光章	2・11・3
國井 和男	秋田市手形	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	3・3・1
進藤 清	秋田市牛島	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	3・2・1
一関 俊和	潟上市天王字追分	スポーツ振興功勞	旭日 双光章	2・11・3
片岡 春雄	大館市岩瀬字大柳	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	3・2・1
三澤 仁	北秋田市松葉町	教育功勞	瑞宝 双光章	2・11・3
福司 有一	大館市中道	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	2・11・1
田畑 耕造	大館市南神明町	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	2・7・1

～ちょっと一息～ 「あきたの木」

秋田県の『木』は「秋田杉」。県内25市町村が別に定める「木」も一番多いのが「杉」(8市町村)です。次に「ケヤキ」(5市町)、「松」(5市町村)、「ぶな」(4市町)が続きます。「りんご」「ナナカマド」「ベニヤマザクラ」「梅」はそれぞれ1市町です。

皆さんお住まいの市町村の『木』はご存じですか？



お詫びと訂正

前号(95号)16頁「あとがき」の冒頭に誤りがありました。次のように訂正し、お詫び申し上げます。
誤 平成二年度になつてから
正 令和二年度になつてから



【あとがき】

会報96号をお届けします。本年度は、新型コロナウイルスの猛威の下、私たちの生活が大きく様変わりした一年でした。

本会の事業である総会や研修会のほとんどが延期や中止となったため、本号の内容構成も例年と若干異なっております。

本号では、会員の研修・研鑽の一助となればと思い、ポストコロナ時代の学校現場への提言をいただく特集を企画しました。

執筆者に学校教育へ専門的な知見をもつ佐藤修司先生(秋田大学)、有本昌弘先生(東北大学)、現職校長としては、県小中学校校長会にお願いし、長沼優校長(秋田市立城南中学校)に依頼しました。また、嵯峨房和校長(秋田市立東小学校)からは写真提供をしていただきました。

おかげ様で、特集ではコロナ禍においても頑張る学校現場の現状が分かるとともに、今後の学校の在り方に関する示唆に富む貴重なご提言をいただくことができました。お忙しいところ執筆やご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

また、県内各地区からいただいた「郡市だより」や「会員の寄稿」からは、コロナ禍のまっただ中にも関わらず、会員の皆様が元気に活躍されている姿を覗うことができ、大変嬉しく思います。

新しい年度になります。一日も早くこのコロナ禍での生活が改善されていくことを願っております。